



元気だからこそ受けよう！がん検診

がんは、一生のうち2人に1人がかかる身近な病気です。がんは早期に発見すると治る可能性が高まります。症状がなくても定期的にがん検診を受けましょう。

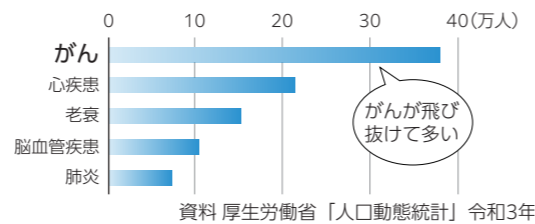
問 健康づくり推進課／Tel674-8800 ID 005457



4人に1人ががんで亡くなる

令和3年にがんで亡くなった人は全国で381,497人で死亡総数の26.5%を占めています。41年間連続で死因の第1位になっています(表1)。

表1 日本人の死因



早期発見が重要 自覚症状なく進行も

治療技術の進歩に伴い、早期であれば完治できるがんも増えていて、不治の病ではなくなってきています。5年後の生存率を見ると、早期発見であれば、ほとんど(90%以上)の人が助かりますが、発見が遅れると5人に1人しか助かりません。

早期のがんは自覚症状がほとんど無く、異常を感じた時には手遅れになります。早期発見するには、症状がなくても定期的に検診を受診することが大切です。

あなたの「なりやすいがん」は？

性別や年齢によって、なりやすいがんは異なります。市のがん検診はり患率が高くなる年代を対象に行っています。表2を参考に、なりやすいがんの検診をぜひ受けてください。

表2 性別・年齢別り患順位(令和元年)

※市が検診を実施しているがんをり患数順に並べたもの

性別	年齢	順位	がんの種類
男性	40代	第1位	大腸がん
		第2位	肺がん
	50代	第1位	大腸がん
		第2位	胃がん
		第3位	肺がん
	60代以上	第1位	胃がん
第2位		肺がん	
第3位		大腸がん	
女性	20代	第1位	子宮頸がん
		第2位	乳がん
	30-40代	第1位	乳がん
		第2位	子宮頸がん
		第3位	大腸がん
50代	第1位	乳がん	
	第2位	大腸がん	
60代以上	第1位	大腸がん	
	第2位	乳がん	
	第3位	肺がん	
	第4位	胃がん	
	第5位	子宮頸がん	



資料 国立がん研究センター全国がんり患データ

10/17~23は薬と健康の週間 薬は正しく使おう

ID 002632

薬は病気の治療や予防に役立ちますが、正しく使わなければ、副作用や健康被害につながります。薬局、薬剤師に相談したり、服薬状況を医師などに正しく伝えたりすることが重要です。

正しく使うためのポイント

- ・かかりつけ薬剤師、薬局を持つ
- ・お薬手帳は1人1冊だけ持つ
- ・お薬手帳を医師や歯科医師、薬剤師に見せて、服用している薬の情報を正しく伝える

問合 健康医療政策課／Tel661-9330



10・11月は麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動週間 薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」

ID 002603

薬物乱用は違法行為だけでなく、幻覚や妄想から周囲に暴力をふるったりすることがあります。また、インターネットなどに拡散された「大麻に害がない」といった誤った情報をうのみにし、乱用に至るケースが後を絶ちません。薬物の危険性を正しく理解し、なぜ薬物が有害なのかについて、家庭でも話し合ってみましょう。困ったときは一人で悩まず、家族や学校、専門家など信頼できる人に相談してください。

問合 健康医療政策課／Tel661-9330

高槻市は検診が無料

市では、市民を対象にがん検診を無料で実施しています。集団会場だけでなく、医療機関でも受けられるほか、特定健診とセットで受けられます(条件あり)。集団検診では保育付きの検診もあり安心です。検診の日程や申込方法については市ホームページをご確認ください。

なお、明らかな症状がある場合は、身体の状態に応じた検査や治療が必要になるので、必ず医療機関を受診してください。

表3 検診の内容

検診名・対象	検診内容
肺がん検診 =40歳以上	問診、胸部エックス線検査 ※該当者は喀痰検査を実施
胃がん検診 =50歳以上(前年度未受診の人) ※令和3年度に奇数年齢かつ集団検診で胃がん検診を受診した人は、今年度に限り胃内視鏡検査だけ受診可	問診と胃部エックス線検査(バリウム)または、胃内視鏡検査(胃カメラ) ※胃カメラは指定医療機関だけ
大腸がん検診 =40歳以上	問診、便潜血検査(2日法)
子宮頸がん検診 =20歳以上の女性 (前年度未受診の人)	問診、視診、内診、細胞診
乳がん検診 =30歳以上の女性 (前年度未受診の人)	問診と超音波検査(30~39歳)または、マンモグラフィ検査(40歳以上)

※症状のある人、現在がんの治療中の人などは対象外

精密検査は放置しないで

がん検診で精密検査が必要と判定されたら、がんの疑いがあります。本当にがんがあるかを調べるために、精密検査を必ず受けましょう。

感染対策を実施

検診では、換気や消毒など感染対策を行っています。安心して受診してください。



インフルエンザ予防接種 65歳以上全額無償 早めの接種を

ID 067645

65歳以上の人などを対象に、インフルエンザの予防接種費用の全額助成を行います。冬に向けてインフルエンザの流行が懸念されていますので、できるだけ早期の接種にご協力ください。

対象 ・65歳以上の人
・60~64歳で心臓などに機能障がいがあり、障がい者手帳1級を持つ人

期間 10/1(土)~12/28(水)
場所 かかりつけ医にご相談ください
※かかりつけ医のない人は、市保健所で配布している医療機関一覧表か市ホームページを確認の上、医療機関に予約してください

料金 無料
問合 保健予防課／Tel661-9332

ノロウイルスなどによる 感染性胃腸炎に注意

ID 002926

ノロウイルスやロタウイルスによる感染性胃腸炎は1年を通して発生していますが、今年は6月ごろから流行しています。これらのウイルスは感染力が強く、集団感染を引き起こします。

感染すると1・2日の潜伏期間後に嘔吐(おうと)や下痢、腹痛などの症状が1~3日続きます。しっかり手洗いをして、二次感染を防ぎましょう。

予防のポイント

- ・調理や食事前、トイレの後には、必ずせっけんで手洗いする
- ・加熱が必要な食品は加熱調理する(食品の中心温度が85~90度で90秒以上)
- ・使用後の調理器具は十分に洗浄・消毒する

問合 保健予防課／Tel661-9332



10/17~23は薬と健康の週間 薬は正しく使おう

ID 002632

薬は病気の治療や予防に役立ちますが、正しく使わなければ、副作用や健康被害につながります。薬局、薬剤師に相談したり、服薬状況を医師などに正しく伝えたりすることが重要です。

正しく使うためのポイント

- ・かかりつけ薬剤師、薬局を持つ
- ・お薬手帳は1人1冊だけ持つ
- ・お薬手帳を医師や歯科医師、薬剤師に見せて、服用している薬の情報を正しく伝える

問合 健康医療政策課／Tel661-9330



10・11月は麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動週間 薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」

ID 002603

薬物乱用は違法行為だけでなく、幻覚や妄想から周囲に暴力をふるったりすることがあります。また、インターネットなどに拡散された「大麻に害がない」といった誤った情報をうのみにし、乱用に至るケースが後を絶ちません。薬物の危険性を正しく理解し、なぜ薬物が有害なのかについて、家庭でも話し合ってみましょう。困ったときは一人で悩まず、家族や学校、専門家など信頼できる人に相談してください。

問合 健康医療政策課／Tel661-9330

健診・検診 ID 032781

問合 健康づくり推進課／Tel674-8800

	日時・会場	申込方法
特定健診(9:30~11:00)	10/18(火)庄所コミュニティセンター・19(水)玉川牧田コミュニティセンター・20(木)春日ふれあい文化センター☆・28(金)如是公民館・30(日)柱本小学校☆、11/1(火)富田公民館☆・8(水)今城塚公民館☆・9(木)今城塚公民館☆・12(土)三箇牧公民館☆ ☆は骨あり	不要(要受診券・保険証)
オプション	[単独受診可]肺がん検診、骨の健康度測定(一部会場だけ) [単独受診不可]ピロリ菌検査、肝炎ウイルス検診(B・C型)、前立腺(PSA)検査	当日
健康相談会(14:00~15:30)	11/17(木)日吉台公民館 相談員:医師、保健師、管理栄養士、薬剤師	随時 HP ☎ 窓
対象	[特定健診]今年度40~74歳(75歳の誕生日の前日まで)の市国保被保険者 [がん検診]肺=40歳以上 [その他]前立腺=50~89歳男性、肝炎=今年度40歳以上(B・C型各500円)、ピロリ菌=30~49歳(500円)、骨=40歳以上(500円)	※特定健診以外は市民だけ
備考	日程の詳細は「健康だより」にも掲載▷費用記載なしは無料。その他無料制度あり。対象は非課税・生保世帯(要事前申請)、70歳以上または後期高齢者医療制度に加入している市民▷受診時はマスクを必ず着用。発熱時、体調不良時は受診不可▷市内の指定医療機関で個別受診可(骨測定除く)	

HP ウェブ申込 ☎ 電話 窓 窓口